



TPM1000 によるマツダ RF-CDT エンジンの DPF 初期化（強制再生）方法

 ・DPF 初期化中は、高温の排気ガスが排出されるため、近くに人や可燃物がある場合、火傷や火災など重大な損傷、損害につながる恐れがあります。実施する場合は、必ず周りに人や可燃物がない場所で行って下さい。

・排気ガスを多量に吸い続けた場合、一酸化炭素中毒になる恐れがあるため、DPF 初期化を実施する場合は、必ず風通しの良い広い場所で行って下さい。

 ・DPF 内に堆積している実際の PM 堆積量と PCM が認識している PM 堆積量の誤差を解消するため、PCM またはキャタリスト・コンバータを交換した場合、およびサービス・コード (P0102、P0103、P0472、P0473、P0548、P0549、P0601、P2454、P2455) 表示時は必ず実施します。

・DPF 手動再生は以下の条件では作動しません。


- 標高 約 1,000 m 以上
- 吸入空気温 0°C 以下

DPF の初期化は、DPF 手動再生を強制的に以下の条件で繰り返し実施することです


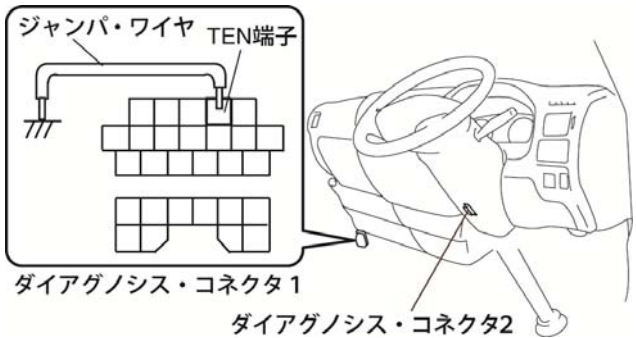

DPF 初期化実行回数条件表

条件	DPF インジケータ・ライト状態 (PCM 交換前、サービス・コード確認時)	DPF 初期化 実行回数	
		ZTS_C93D(PID)確認時	指定回数
キャタリスト・コンバータ交換時 *	—	—	3 回
PCM 交換時 *	点灯、点滅なし	—	3 回
	点灯あり		4 回
	点滅あり		5 回
サービス・コード P0601 表示時 *	—	—	5 回
その他の場合	点灯、点滅なし	「6.51 M」 以下になるまで	(3 回)
	点灯あり		(4 回)
	点滅あり		(5 回)

1. バッテリの充電量が正常であることを確認して下さい。
2. エンジンを暖機します。(冷却水温 65~95°C、吸気温 0~65°C、燃温 30~60°C)
3. シフト・レバーをニュートラル(MT 車)、またはセレクト・レバーを P レンジ(AT 車)にします。
4. 全ての電気負荷を OFF にします。
5. ステアリング・ホイールを直進状態にします。
6. アクセル・ペダルを全閉にします。
7. イグニッションスイッチが OFF である事を確認し、TPM1000 を車両に接続します。



ダイアグノシス・コネクタ2
8. イグニッションスイッチを ON にします。
9. [診断] → [MAZDA] → [診断] → [エンジン] からエンジンの故障コードを確認し、コードがある場合は消去します。
10. エンジンをアイドル状態にします。

11.	[NO]ボタンを何度か押し、マツダメインメニューに戻り、[作業ポート] → [エンジン] → [インジェクション量の修正] を選択し、実行します。
	修正終了時に「ZTS_C93D」の数値を確認して下さい。
12.	エンジンスイッチを OFF にして、10 秒以上放置します。
13.	[NO]ボタンを何度か押し、[マツダメインメニュー]まで戻り、TPM1000 を車両から外します。
14.	ジャンパ・ワイヤを使用して、エンジンルーム 17 ピンダイアグノシス・コネクタ の TEN 端子をポテ-アースします。
	
	DPF 初期化実施の中断は、TEN 端子のポテ-アースを解除します。
15.	エンジンをアイドル状態にします。
16.	レーシングを 2 回行います。 約 5 秒後にアイドル回転数が上昇し、DPF 手動再生と同様の DPF 燃焼再生が開始します。
17.	アイドル回転が正常に戻った後、以下に従って手順 15 から繰返し実施します。 ・DPF 初期化実行回数条件表の*印の条件に該当する場合は、指定回数分を繰返し実施します。 ・その他の場合は、再度インジェクション量の修正実施後に表示される「ZTS_C93D」の数値を確認し、基準値 (6.51M) 以下になるまで繰返します。
18.	アイドル回転が正常に戻った後、エンジンスイッチを OFF にし、10 秒以上放置します。
19.	TEN 端子のポテ-アースを解除します。